

## 令和2年度 学校評価における自己評価について

学校法人翔英学園 認定こども園みずほ幼稚園

### 1 教育理念

本園は教育基本法、学校教育法に基づき、幼児の望ましい経験を通して心身の発達を図り、豊かな人間形成の基礎を築くことを目的とする。

### 2 本園の教育目標

明るく、元気で心身共にたくましい、人間性豊かな子どもを育てる。

### 3 めざす子ども像

1. 明るく伸び伸びと行動し、心身共に健康でたくましい子
2. 園生活を楽しみ、身近な人に愛情や信頼感を持つ子
3. 身近な環境に親しみ、好奇心や探究心を持って関わり、よく考える子
4. 感じたことや考えたことを自分なりに表現し、豊かな心を持つ子

### 4 本園の特色

1. 自然の中へとび出す保育
2. 元気な体をつくる保育
3. 温かい手づくり保育
4. 友だちをいっぱいつくる保育

### 5 本年度の教育重点目標

○明るく伸び伸びと行動し、心身共に健康でたくましい子

- ・楽しく体を動かす。(0歳)
- ・進んで体を動かそうとする。(1歳)
- ・体をいっぱい使って元気に遊ぼうとする。(2歳)
- ・体を動かすことを喜び、いろいろな遊びを楽しもうとする。(年少組)
- ・体を十分に動かし、苦手なこともやってみようとする。(年中組)
- ・健康な生活リズムを身に付け、自信を持ち意欲的に行動しようとする。(年長組)

### 6 園が重点的に取り組む目標

- ・認定こども園3年目になり、乳幼児の保育・教育の環境や教材の研究に積極的に取り組み、専門性を高める。また、預かり保育の環境と保育時程について、定期的に見直し長時間保育の生活リズムや心身の状態に配慮をしていく。
- ・0・1歳児の遊びを重点的に取り上げ、少人数での遊びや、屋外での遊びの環境設定を工夫し、研究する。また、園全体の中で、どのようなかわりが出てくるのか、子どもの様子を見とりながら考えていく。
- ・保育の質の向上に向けた課題に組織的に対応するため、保育内容の改善や役割分担の見直し等を取り組むと共に、それぞれの職務内容に応じて、知識及び技能を身に付けられるようにする。
- ・職員間の連携、園内研修や会議について取組み内容を明確にして、有効的な会議の進め方、実践と評価、課題について検討を行う組織を構築する。

7 評価項目の達成及び取組み状況

教育・保育内容の充実	評価	取組
園の教育理念・教育目標・方針に沿って教育課程が編成され、それを基に年間指導計画を作成し、月週案を随時評価し見直している。	A	月週案は週毎の反省・評価を基に、翌週、翌月に生かして作成し、保育・教育を行うことができた。また、次年度にもつながるよう見直しも行えた。
認定こども園教育・保育要領の内容を理解し、0歳児から就学前までの子どもの発達状況に即した指導が行われている。	B	各学年では、個々の発達に即した指導を行うことができています。子どもの育ちに連続性をもたせる取り組みを行いたい。
職員間の共通理解のもと教育・保育にふさわしい生活環境の工夫・見直しを行っている。	B	学年の中での共通理解はしやすいが、他学年とでは難しいこともある。気づいた時に個々に声を掛け合い、より良くなるように行ってきた。
季節ごとに植栽を行い、園内の自然環境の充実を高め、保育の中にも活かし豊かな体験活動を行っている。	A	野菜等の栽培・収穫の計画を立て保育の中で実践することができた。収穫物を持ち帰ったり、大きさ比べをしたりして、学年によっては様々な領域へ発展した活動も見られた。
日常の保育や行事において、学年・縦割りグループ等を編成して、異年齢の園児同士が関わる活動を工夫している。	B	コロナ禍にあり、例年のように交流できなかったが、自由あそび中に異年齢の関わりが見られた。年上の子が年下の子のお世話をする姿が、日常の生活で見られた。各学年同志の交流も持てた。
特別支援教育において、特別支援専門機関や家庭との連携を図り、個別の支援計画・指導計画を作成し適切な支援を行っている。	A	保護者と共通理解をし、専門機関とも連携を取り、指導の手立てを常に考えてきた。特別支援の園児だけでなく、気になる子どもについても個別の対応を行うように職員間でも心がけてきた。
<b>地域で支える幼児教育の推進</b>		
散歩や園外保育を通し、地域の人や自然と触れ合う機会を設けている。また、地域の行事に積極的に参加し、交流や文化等に興味・関心を持たせている。	B	コロナ対策を行った上で、時期や内容を検討し園外保育は実施した。園周辺の散歩をどの学年も行い、地域の方に出会うと挨拶をしたり園周辺の身近な環境に季節を感じたりする事ができた。
<b>子育て親育ち支援の充実</b>		
保育参観・家庭訪問・個人懇談・HP等を通し、保育の内容や情報を提供し、保護者の意見や要望等も受けやすくしている。	B	0、1、2歳児は送迎の際に、保護者に声を掛けて様子を伝えるようにしている。HPの更新は心がけてきたが、行事だけでなく日頃の様子をもっと発信したかった。コロナ禍で保護者の方は園に入ってもらえなくて様子が十分に伝わらなかったようだ。
連絡ノートを活用し、園や家庭での様子を伝え合い、子どもの成長を共通理解している。	B	日々の様子にエピソードを添えて伝えるようにしてきた。保護者と、子どもへの愛情や成長を喜ぶ気持ちを共感し合えるよう、今後も有効に活用していきたい。

未就園児親子参加の体験教室「はらっばくらぶ」を実施し、幼稚園の活動の疑似体験や、子育て講演会・相談を行い、子育て支援の取組を行っている。	B	新型コロナウイルス感染拡大防止に配慮して、人数制限など感染対策を行い、今できることを工夫し開催した。
預かり保育(早朝・延長保育)の運営体制を整え、カリキュラムを基に預かり保育の充実を図る。	B	おもちゃが増え、遊びとしては楽しんで過ごしている。今後さらに計画的に年齢・季節に応じ、保育に変化を持たせていきたい。
<b>小学校教育との連携</b>		
地域の小学校の先生や校長先生との連絡会を通し教育活動の進捗状況や子どもの姿について教職員が情報共有できる場を設け実践している。	B	コロナ禍の為、これまでとは違った形になったが、就将校区の校長先生・保育園の園長先生とは連絡会を行い、連携を持つようにした。情報交換の内容をコロナ対策の参考にした。
アプローチカリキュラムを基に、就学に向け幼小連携を意識しスムーズに移行できるようにしている。	B	年長のカリキュラムに地域の小学校との交流を組み入れ、主体的な遊びを大切に、保育を進めていった。自園のアプローチカリキュラムを見直していきたい。
幼稚園と小学校のお互いの行事を連絡し合い、交流の場が出来るようにする。	B	学校ごっこ、発表会の見学で交流が持てて、年長児・職員ともに良い経験や刺激となった。
<b>保育者の資質向上</b>		
教職員全員が園児の情報を共有し、共通理解を持ち適切に対応している。	A	クラス担任を主に、細かい事でも全職員に発信し、全園児のことを共通理解するように努めてきた。共通理解の方法として記録伝達もとった。
園外研修に参加する機会を確保し、職員の資質向上に取り組む。研修会参加後に情報共有し、内容を共通理解していく。	B	研修は少なかったが、機会は逃さずに参加することができた。持ち帰った内容を園内の取組や、学年の保育で生かしてはいる。園内研修に結び付けることができなかつたので、次年度は設ける。
<b>安全管理</b>		
危機管理マニュアルを基に防災計画を作成し適切に実施している。	A	毎月、工夫をして訓練を行い、その都度反省・評価をした内容が次回に生かせるよう、改善し実施している。専門の方の指導、地域の方の協力を得ながら次年度も命を守る教育を行っていきたい。
職員が定期的に園内外の遊具の点検をし、安全管理の徹底を心がける。職員が日頃から、安全教育に関心を持ち、安全対応能力の向上に繋がるようにする。	B	定期的に担当学年で点検を行った。また職員は子どもの遊びの様子から、危険な箇所があれば、その都度修繕するよう安全な環境を心がけている。

## 8 総合的な自己評価(結果)

結 果	理 由
<p>B</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度の重点目標については、各学年共計画的に保育の中に取り入れ、継続的に教育・保育を行うことができた。</li> <li>・保護者・職員間の連携は十分にできていた。個々のねらいに向けて取り組めた。(0歳)</li> <li>・職員でクラス全員の子どもに向き合って、一人ひとりの課題に合わせ、保護者と連携して成長を見守ることができた。また、遊びの環境(空間・教材)の充実にも努めた。(1歳)</li> <li>・個々の対応を丁寧に行うよう意識し、子どもも保護者も安心して通えるよう環境を整え信頼関係を築くよう努めた。(2歳)</li> </ul>
<p>A・十分達している B・達成されている C・取り組まれているが 成果が十分でない D・不十分である</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナのために計画通りに保育が進められないこともあったが、日頃の保育を見直しながら楽しめるように工夫していった。(年少)</li> <li>・計画的に保育を実践し、自分のことは自分で行い、考える力も育まれるように保育・教育に取り組んだ。(年中)</li> <li>・計画を基に、子どもの様子に合う環境を工夫して主体性を育む保育を行うことができた。学年の共通理解は取れているが、全学年については課題が残る。(年長)</li> <li>・行事を縮小することで、活動内容に変化を持たせ、より子どもが中心となることができたので良い面もあった。</li> </ul>

## 9 今後取り組むべき課題

<ul style="list-style-type: none"> <li>・異年齢児との関わり、交流の方法、マナー化しない工夫した保育内容を検討する。</li> <li>・子どもの年齢に合った過ごしやすい環境を工夫し整えていく。</li> <li>・今年度の重点目標を達成するための一つとして、どの学年も散歩を取り入れた。天候の良し悪しに実施が左右される為、柔軟に保育計画に組み込めるようにできないかと、課題はある。今後も継続して自然や地域社会に触れて子どもたちの豊かな心、生きる力を育てていきたい。</li> <li>・コロナで保護者の出入りを制限した為、保護者とのコミュニケーションや子どもの様子を伝える方法が十分ではなかった。園での様子を発信する手立てをさらに工夫し活用していくようにする。</li> <li>・今年度は、全体計画の内容を検討し充実を図った。これから本園の0歳からの保育・教育の礎となるように活用していきたい。</li> </ul>
---